

独立行政法人日本学生支援機構 (JASSO)
学生生活部学生支援企画課
学生支援調査室
電 話 : 03-5520-6169
F A X : 03-5520-6048

「平成 26 年度学生生活調査」結果の概要

全国の学生を対象として、学生生活状況を把握することにより、学生生活の実状を明らかにし、学生生活支援事業の充実のための基礎資料を得ることを目的とし、平成 26 年 11 月現在で、大学学部、短期大学、大学院修士課程、博士課程及び専門職学位課程の学生¹を対象に実施した「平成 26 年度学生生活調査」の結果の概要である。

学生生活費（学費と生活費の合計）、学生の収入状況、家庭の年間平均収入額、アルバイト従事状況、奨学金の受給状況、通学時間、週間平均生活時間、大学の学生支援体制への満足度、学生の不安や悩みの項目について取りまとめている。

【調査対象者 2,934,376 人から 99,842 人を抽出し調査した。(回収率 46.2%、有効回答数 45,577 人)】

(注)1. 本調査における学生生活費は学費と生活費を合わせたものである。

学 費 : 授業料、その他の学校納付金、修学費、課外活動費、通学費の合計

生活費 : 食費、住居・光熱費、保健衛生費、娯楽・嗜好費、その他の日常費²の合計

2. 本調査結果の集計各表は端数処理（四捨五入）後の数値を使用しており、内訳の合計値と合計欄の値が一致しないことがある。

3. 大学院専門職学位課程については、平成 18 年度より調査対象とした。

なお、大学院（全課程）については、配偶者を有すると回答した者は、学生生活費が大きく異なるケースが想定されるため、従前の例にならい学生生活費等の集計に含まない。

4. 質問の一部に回答が無い調査票は、一部の集計の際に集計対象から外したものがあ

5. 文中で紹介する資料の数値は、この標本調査の有効回答を基礎として調査対象学生総数から推計値を算出した結果である。

6. 住居に関する区分「アパート等」には下宿とその他を含む。

7. 文中の「大学学部」、「短期大学」は、特に明記がない場合は（昼間部）のことを言う。

¹ 通信課程、外国人留学生、休学中の学生を除く。

² その他の日常費に通信費を含む。

(7) 経済状況と学習状況との関連分析 (大学学部)

濱中 義隆 (国立教育政策研究所 総括研究官)

家計の経済状況が厳しく、家庭からの給付が十分でなければ、学費・生活費を賄うために学生本人が長時間のアルバイトに従事せざるを得ず、結果として出身家庭の経済状況が大学での学習状況、ひいては学業達成に影響を及ぼすことも考えられる。以下ではこうしたことが実際にどの程度生じているのかを検証する。

家計収入とアルバイト時間の関係

表1には家計収入と1週間のアルバイト時間の関係を示した。アルバイト時間が「0時間」とした者の比率は家計収入1050万円以上の高所得層で高く(38%)、450万円未満の低所得層で低い(30%)。反対に週に「21時間以上」の長時間のアルバイトをしている学生の比率は、低所得層で高く(14%)、高所得層で低くなっている(9.2%)。また「11～20時間」の比率も低所得層の方が高所得層より4%ポイント程度高い。以上のことから、やはり低所得層の学生の方が、長時間のアルバイトに従事せざるを得ない実態が存在することがうかがえる。

表1 家計収入階層別週あたりアルバイト時間 (%)

		週あたりアルバイト時間				計
		0時間	1～10時間	11～20時間	21時間以上	
家 計 収 入	450万円未満	30.2	22.6	32.7	14.4	100
	450～650万円	31.6	22.9	33.6	11.8	100
	650～850万円	33.3	22.6	32.0	12.1	100
	850～1050万円	33.3	24.7	30.7	11.4	100
	1050万円以上	38.0	23.9	28.8	9.2	100

アルバイトと学習時間、学業成績との関係

一方、アルバイト時間と学習状況の関係はどうか。表2にはアルバイト時間と大学の授業の予習・復習などに使った時間の関係を示した。なお、授業の予習・復習の時間は、履修登録している授業科目数によって大きく異なるため、表2では卒業に必要な単位の大部分を修得している4年生(以上)を除き、1～3年生のみを対象に集計した(以下、表8まで同じ)。

表2が示すとおり、週に「21時間以上」のアルバイトをしている学生では、授業の予習・復習の時間が「0時間」という者の比率が高い(18%)。「1～10時間」、「11～20時間」の間ではほとんど差は見られないが、アルバイトをしていない(「0時間」)学生において授業の予習・復習の時間がやや長いことが読み取れる。

表3にはアルバイト時間と学業成績の関係を示した。今回の調査では大学での成績について、5段階評価の場合、S(秀、A+など)、A(優)、B(良)、C(可)のおおよその割合を足して10になるように回答してもらっている(4段階評価の場合A、B、Cそれぞれの割合。GPAのみの回答も可)。ここでは5段階評価の場合について、SとAの割合を合計した値を示した。やはりアルバイト時間が長くなると、成績優秀者(S及びAの割合が8割以上)の比率が少なくなる傾向にあり、アルバイト時間と学業成績の間にはマイナスの相関関係があるといえる。

表 2 アルバイト時間と自習時間の関係 (%、1~3年生のみ)

		週あたり授業の予習・復習の時間				計
		0時間	1~5時間	6~10時間	11時間以上	
週あたり アルバイト 時間	0時間	11.0	54.0	20.4	14.6	100
	1~10時間	12.7	58.0	18.0	11.4	100
	11~20時間	12.9	58.9	18.4	9.8	100
	21時間以上	18.3	57.5	16.7	7.5	100

表 3 アルバイト時間と学業成績の関係 (%、5段階評価の場合、1~3年生のみ)

		学業成績 (S,A の割合)				計
		4割未満	4~6割	7~8割	8割以上	
週あたり アルバイト 時間	0時間	26.6	21.2	24.3	28.0	100
	1~10時間	24.3	23.8	26.3	25.7	100
	11~20時間	27.9	25.5	23.7	22.8	100
	21時間以上	32.8	22.7	24.1	20.4	100

家計の経済状況と学習状況の関係

ここまでの集計結果から、家計の経済状況と大学における学習状況や学業成績には負の相関関係があることが予想される。しかし、授業の予習・復習の時間についても(表4)、学業成績(S及びAの割合、表5)を見ても、家計収入と学習状況の間の関連は必ずしも明瞭ではない。これらの結果は、アルバイト時間が同じであれば、低所得層よりも中高所得層の方が自習時間は少なく、学業成績も低いことを意味している。そのため、アルバイト時間を媒介とした家計の経済状況の負の影響が、見かけ上、相殺されてしまっているのである。

表 4 家計収入階層と自習時間の関係 (%、1~3年生のみ)

		週あたり授業の予習・復習の時間				計
		0時間	1~5時間	6~10時間	11時間以上	
家 計 収 入	450万円未満	10.8	56.5	20.4	12.3	100
	450~650万円	11.1	58.9	19.7	10.3	100
	650~850万円	10.7	58.8	18.9	11.6	100
	850~1050万円	11.3	56.8	19.5	12.5	100
	1050万円以上	13.4	52.2	20.3	14.1	100

表 5 家計収入階層と学業成績の関係 (%、1~3年生のみ)

		学業成績 (S,A の割合)				計
		4割未満	4~6割	7~8割	8割以上	
家 計 収 入	450万円未満	27.2	23.1	23.1	26.6	100
	450~650万円	24.9	26.2	24.1	24.8	100
	650~850万円	27.3	23.8	24.1	24.8	100
	850~1050万円	26.6	21.6	26.0	25.9	100
	1050万円以上	26.9	21.1	27.3	24.7	100

このような結果がもたらされた理由として考えられるのは、アルバイトの目的である。低所得層の場合には、授業料、住居費・食費（自宅外生の場合）など学業継続に必須の費用を学生本人のアルバイトで賄う必要性が高所得層と比較して必然的に大きい。実際に、アルバイトの主な使途と家計収入の関連を見ると（表6）、学費（授業料、その他の学生納付金、修学費、通学費）を主な使途とする学生の比率は低所得層ほど高い。また、生活費（自宅外生の住居・光熱費、食費）についても低所得層（「450万円未満」）が最も高い。一方、娯楽・嗜好費（自宅生の外食費、サークル活動などの課外活動費を含む）を主な使途とする者は、高所得層ほど多くなっていることが分かる（ただし、いずれの所得階層においてもアルバイトの主な使途として最も多いのは娯楽・嗜好費である）。

表6 家計収入階層別 アルバイト収入の使途（%、1~3年生のみ）

		アルバイト収入の使途				計
		学費(授業料、修学費等)	生活費(自宅外生の住居費・食費)	娯楽・嗜好費、課外活動費	その他(貯金含む)	
家計収入	450万円未満	19.1	20.3	42.6	18.1	100
	450~650万円	12.3	15.6	57.0	15.2	100
	650~850万円	8.8	14.3	60.5	16.4	100
	850~1050万円	7.3	11.7	63.3	17.8	100
	1050万円以上	5.2	12.3	66.9	15.6	100

ここで再び授業の予習・復習の時間（表7）、学業成績（表8）について、アルバイトの主な使途との関連を見ると、アルバイト収入を学費に充てているとした者の方が、娯楽・嗜好費を主な使途とする者よりも、授業に関連した自習の時間が長く、学業成績もやや良好であることが示されている。

表7 アルバイト収入の使途と自習時間の関係（%、1~3年生のみ）

		週あたり授業の予習・復習の時間				計
		0時間	1~5時間	6~10時間	11時間以上	
アルバイト収入の使途	学費	8.7	52.3	23.8	15.2	100
	生活費	11.9	56.5	20.6	11.1	100
	娯楽・嗜好費等	14.5	59.4	16.6	9.5	100
	その他	11.0	55.4	21.2	12.4	100

表8 アルバイト収入の使途と学業成績の関係（%、1~3年生のみ）

		学業成績（S,Aの割合）				計
		4割未満	4~6割	7~8割	8割以上	
アルバイト収入の使途	学費	23.8	21.9	25.4	28.9	100
	生活費	28.6	21.7	26.6	23.2	100
	娯楽・嗜好費等	28.0	25.3	24.3	22.4	100
	その他	22.0	20.3	28.8	28.9	100

冒頭で述べたように、経済状況の厳しい家計出身の学生においては、修学継続に必要な支出を賄うために長時間のアルバイトをせざるを得ない者が存在する。長時間のアルバイトが学業の支障となることは確かだが、かれらの場合、学業継続を目的とするがゆえに学業にも熱心に取り組んでお

り、現状では他の学生に比べて著しく学業達成が阻害されているわけではない。もっともこれは、日本の大学生の自学・自習時間の少なさ(1～3年生の7割以上が1日あたり1時間未満の学習量)、単位取得の容易さを背景にした結果であることに留意しなければならない。自律的な学習時間の確保が課題となっている現在、学生の経済状況と学習状況の関連については引き続き注視する必要があるだろう。

以上

(数値は分析者による集計値)